

平成 29 年 1 月 26 日

狛江市議会議長  
小 川 克 美 様

社会常任委員会  
委員長 宮 坂 良 子

### 社会常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

#### 記

1 調査事件名  
子供の貧困対策と居場所づくりについて

2 調査の目的

子供の貧困問題が年々深刻になっている。貧困と格差が一層拡大している中、親の失業や低収入など家庭状況の悪化で、2014年発表された政府統計によると、約6人に1人が貧困ラインを下回り、子供の貧困率は16.3%、貧困ラインは122万円。子供の貧困は学力や健康状態、進学率、生涯所得などにも影響し、親、子、孫と世代が変わってもその状態から脱出することができない「貧困の連鎖」がより深刻となっており、早急に対策が求められている。

また、ひとり親家庭や共働きの家庭で、夜遅くまで1人で過ごす子供たちが、食事や学習、団らんなどを通して安心して過ごすことができる「子供の居場所づくり」の取り組みが広がっている。子供の居場所づくりが、貧困対策としても、子供たちの成長にとっても重要な役割を果たしていることが、他市での取り組みからも報告されている。また、狛江市内でもボランティアの方々によって実践が始まっている。

こうした中、先進市にも学びながら、身近に運営している子ども食堂などを視察しながら、「子供の貧困対策」「子供の居場所づくり」について調査を進め、市政の施策として取り組んでいただきたいことについて提言をまとめる。

### 3 調査の結果

本委員会は、「子どもの貧困本部」を設置し「足立区子どもの貧困対策実施計画」を策定し、本格的な取り組みを進めている足立区への視察を行った。

足立区は、2014年「子どもの貧困対策本部」設置、2015年を「子どもの貧困格差対策元年」と位置づけ、「子どもの健康・生活実態調査」と「未来へつなぐあだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」を策定し本格的に取り組んでいる。全ての子供たちが生まれ育った環境に左右されることなく、将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指している。生き抜く力を身につけ貧困の連鎖に陥ることなく自立していくこと、社会での孤立や健康・成育環境の解決や予防。貧困対策に全庁を挙げて総合的に推進、特に「予防・連鎖を断つ」ことに主眼を置く。「学校をプラットホーム」とし相談体制や関係機関と連携、シグナルを早期に発見、適切な支援、必要とする方への「つなぐ」シートの活用、食育重視などなど、総合的でかつきめ細やかな施策を進めている。

以上の調査結果を踏まえ、本委員会として「子供の貧困対策」「子供の居場所づくり」のために、次のように提言する。

#### ◎ 子供の貧困対策についての基本理念の策定と基本的取り組みの施策

足立区は「対策本部」を設置し、「子どもの健康・生活実態調査」を行い、貧困対策実施計画を策定している。計画には「基本理念」と「姿勢」を掲げ、施策では3本の柱立てと具体的施策を掲げている。

狛江市においても、基本理念の策定と基本的計画の策定を行っていく。

また、策定と並行して次の施策を進めることを提言する。

##### ① 子供の健康・生活実態調査

足立区は貧困対策として、子供の健康を守り育てることが貧困の連鎖を断つ第1歩と考え、「子どもの健康・生活実態調査」を行った。子供の健康や生活の実態をつかみ、その上で健康格差対策を講ずることが重要であると実施した。また、子供の健康と世帯の経済状態にどのような関連があるかなどについても分析した。今後も定期的に調査を行い、子供たちの未来につながる実効性ある施策を展開していくとしている。

狛江市においても、「子供の健康・生活実態」調査を早急に行っていく。

##### ② 市役所内の連携強化

足立区では、子供の貧困問題は各部署にわたることになるので、総合的に対策を考える体制や会議体が必要であるとし、「子どもの貧困対策担当部」を設置。相談事業では、多面的・複合的になるので、連携強化を促進するた

めに「つなぐ」シートを活用し、相談窓口の相互の連携で必要とする情報を確実に届けることや、関係機関に案内し、早期解決に努めるとしている。

相談に当たっては各部署にわたることも多くあるので、部署間の連携強化のために「つなぐ」シートなどの活用などの仕組みづくりを行う。相談を気軽にしてもらえらるような工夫・拡充をしていく。

### ③ 学校との連携強化，学校をプラットホームに

足立区では、学校は子供たちが1日の多くの時間を過ごす場所であり、子供の変化や困難に気づきやすい場でもあるとして、学校を「プラットホーム」と位置づけた。子供たちの視点に立ち、いじめや不登校等、子供が抱える困難な課題に対応するため、相談体制の充実や関係機関との連携により、家庭を支援することで、子供の貧困対策を進めている。

このように、学校との連携を強め、学校をプラットホームのような役割が担えるようにしていく。

### ④ スクールソーシャルワーカーの役割の拡充

スクールソーシャルワーカーは、児童・生徒の不登校やいじめ・問題行動などの生活指導上の困難な課題について、保護者や関係機関と連携・協同し、子供たちが安心して過ごせる環境づくりを行い、健やかな成長を支援する大事な役割を持つ。足立区は3人増員し、6人で地域を回ってもらった。モデル地区を中心に支援の仕組みや関係機関とのネットワークを構築し、配置人数や区域を順次拡大しながら支援を強化していくとしている。

狛江市においても、役割などさらなる拡充をしていく。

### ⑤ 子ども食堂への支援—運営費補助や周知を

市内ではボランティアで「子ども食堂」が幾つか開設されている。開設に当たっての初期費用や、運営費、部屋代、食材費など負担が大きいとのこと。初期費用や運営費の補助の支援を行っていく。また、主催者が呼びかける範囲は限定されるので、広く周知することが求められる。地域センターや学校などの公共の場所にチラシを置くことなど、必要な方に届くような周知の協力をしていく。

### ⑥ 学習支援の継続と充実

現在、市は生活困窮者への学習支援を行っているが、支援の継続と、家庭での学習が困難な子供たちなど、対象者や時間などの拡充を。子ども食堂と連携してなど形態も工夫していく。

⑦ 食育の推進—ベジファーストなどを推進していく

足立区は、幼児に対する発育支援施策の一つに「食育の推進事業」を位置づけ、一生を通じた健康維持を実現するために幼時期より食育を推進し、小・中学校での正しい食習慣づくりを推進している。とりわけ「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～」、野菜から食べる食習慣を身につけ実践するために、野菜大好きな足立の子供を育てる取り組み「ベジファースト」を推進している。

狛江市でも食育を推進しているので、その中に「ベジファースト」を位置づけ推進していく。

⑧ 行政サービスの情報や相談支援の発信

足立区では、ひとり親家庭に、各種手当の案内、就転職支援、親子で楽しめるおすすめイベントなど、さまざまな情報をタイムリーにメール配信している。

子育て世代の保護者にとって、行政からの情報は必要であるが、なかなか届きにくい。必要な人にはSNSやメールなどを活用し、必要な情報が届くようにしていく。また、子育てサイトや相談支援の情報のさらなる周知をしていく。

⑨ 児童館の運営

児童館は、子供の居場所であり、遊び場であり、仲間と協調していく力や自立した生き方などを養っていく場であり、地域での子育ての中心的な役割を担っている。

児童館の企画や運営を、子供たちの自主性を伸ばし、育つ力を養っていくためにも、職員とともに行えるような運営体制にしていく。

#### 4 調査の経過

##### ○ 委員会開催日（合計 13 回開催）

- 平成 27 年 6 月 24 日 所管事務調査事項を決定
- 平成 27 年 7 月 23 日 調査の大項目を決定
- 平成 27 年 9 月 16 日 具体的調査項目を「子供の貧困対策について」と決定，資料要求
- 平成 27 年 11 月 6 日 資料に基づき市側より説明，質疑応答，資料要求
- 平成 27 年 12 月 10 日 意見交換，資料要求
- 平成 28 年 1 月 27 日 資料の配付，調査項目を「子供の貧困対策と居場所づくりについて」と変更，意見交換
- 平成 28 年 3 月 8 日 意見交換，資料要求
- 平成 28 年 5 月 30 日 資料に基づき市側より説明，質疑応答，資料要求，委員派遣の決定
- 平成 28 年 8 月 1 日 資料の配付，行政視察の感想及び意見交換
- 平成 28 年 9 月 13 日 調査報告書作成に向けての協議
- 平成 28 年 10 月 31 日 調査報告書作成に向けての協議
- 平成 28 年 12 月 9 日 調査報告書作成に向けての協議
- 平成 29 年 1 月 26 日 調査報告書決定

##### ○ 委員派遣

- 平成 28 年 7 月 22 日 東京都足立区に委員 7 人を派遣し調査